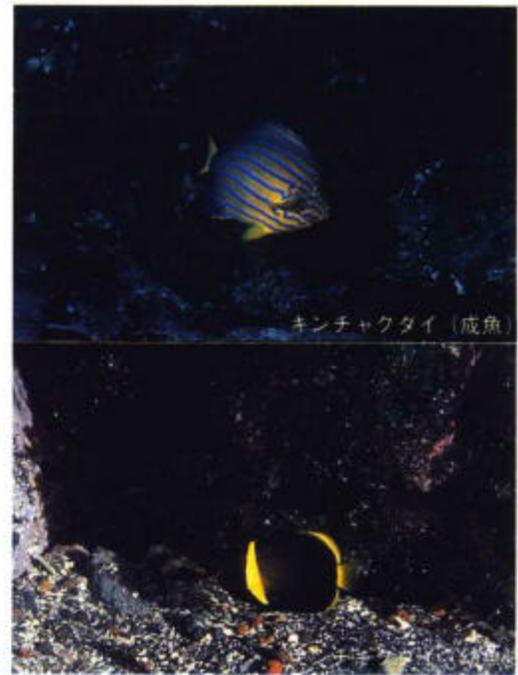
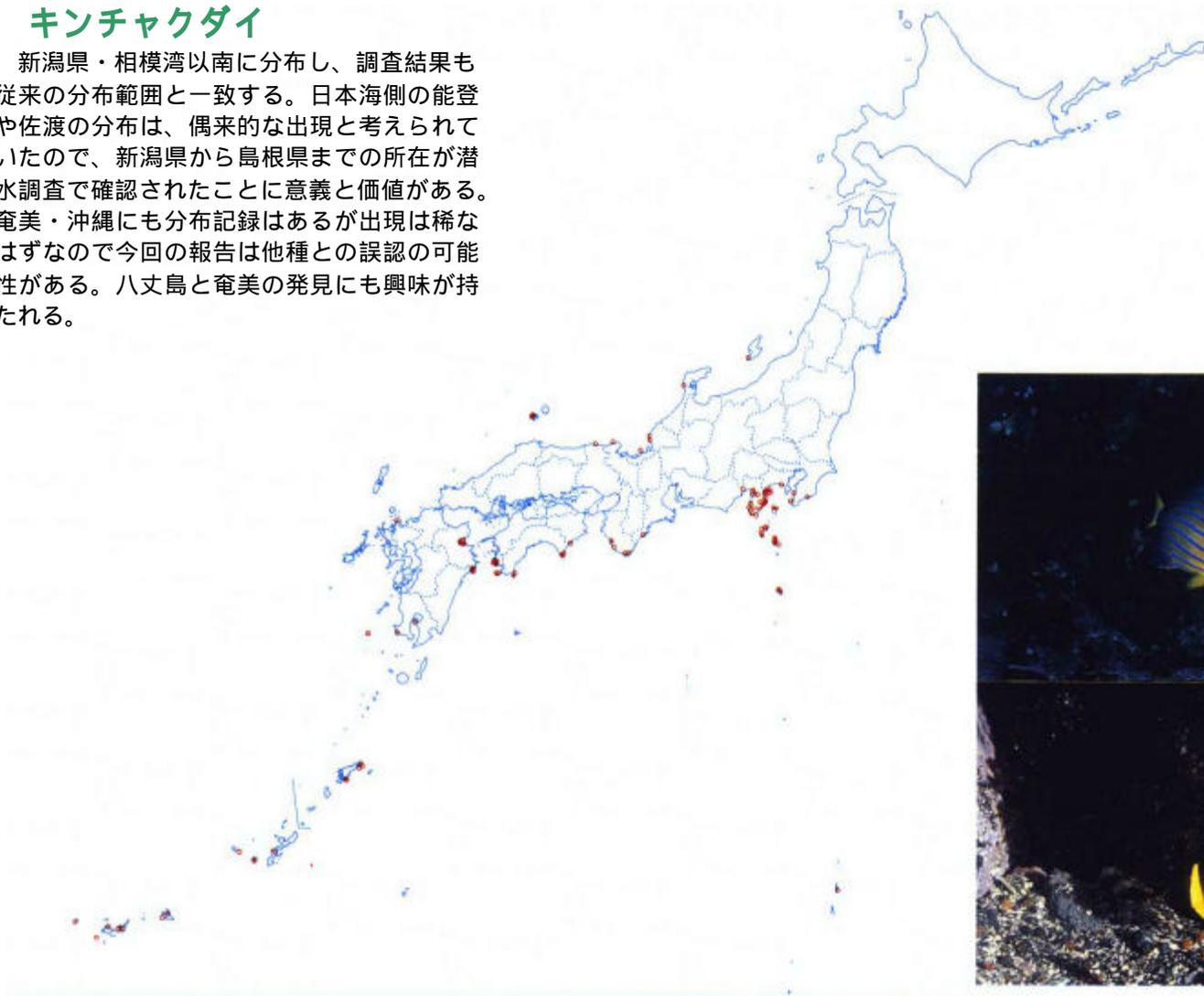


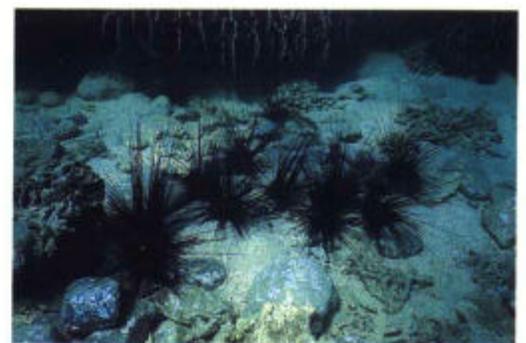
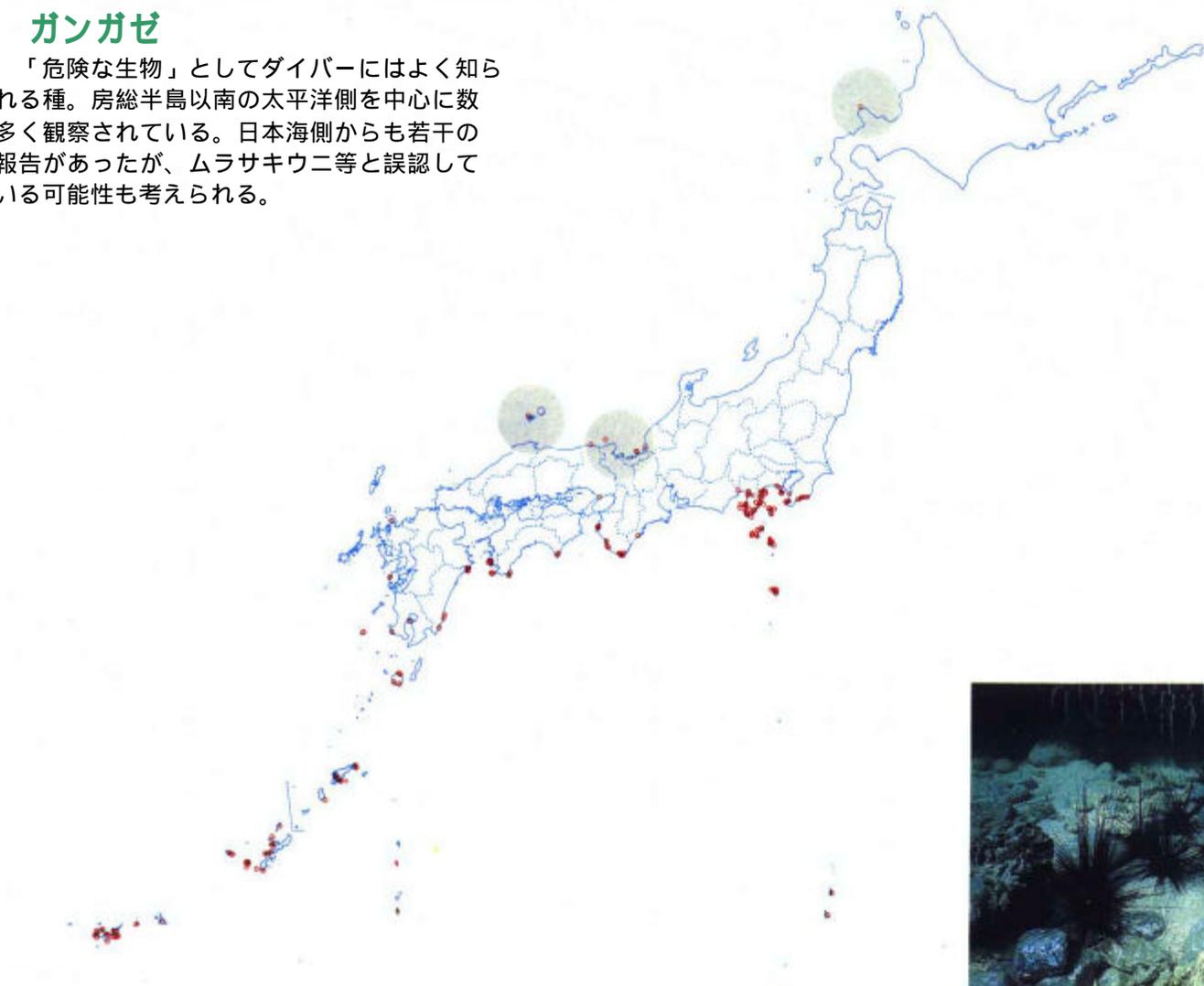
キンチャクダイ

新潟県・相模湾以南に分布し、調査結果も従来の分布範囲と一致する。日本海側の能登や佐渡の分布は、偶発的な出現と考えられていたので、新潟県から島根県までの所在が潜水調査で確認されたことに意義と価値がある。奄美・沖縄にも分布記録はあるが出現は稀なはずなので今回の報告は他種との誤認の可能性はある。八丈島と奄美の発見にも興味を持たれる。



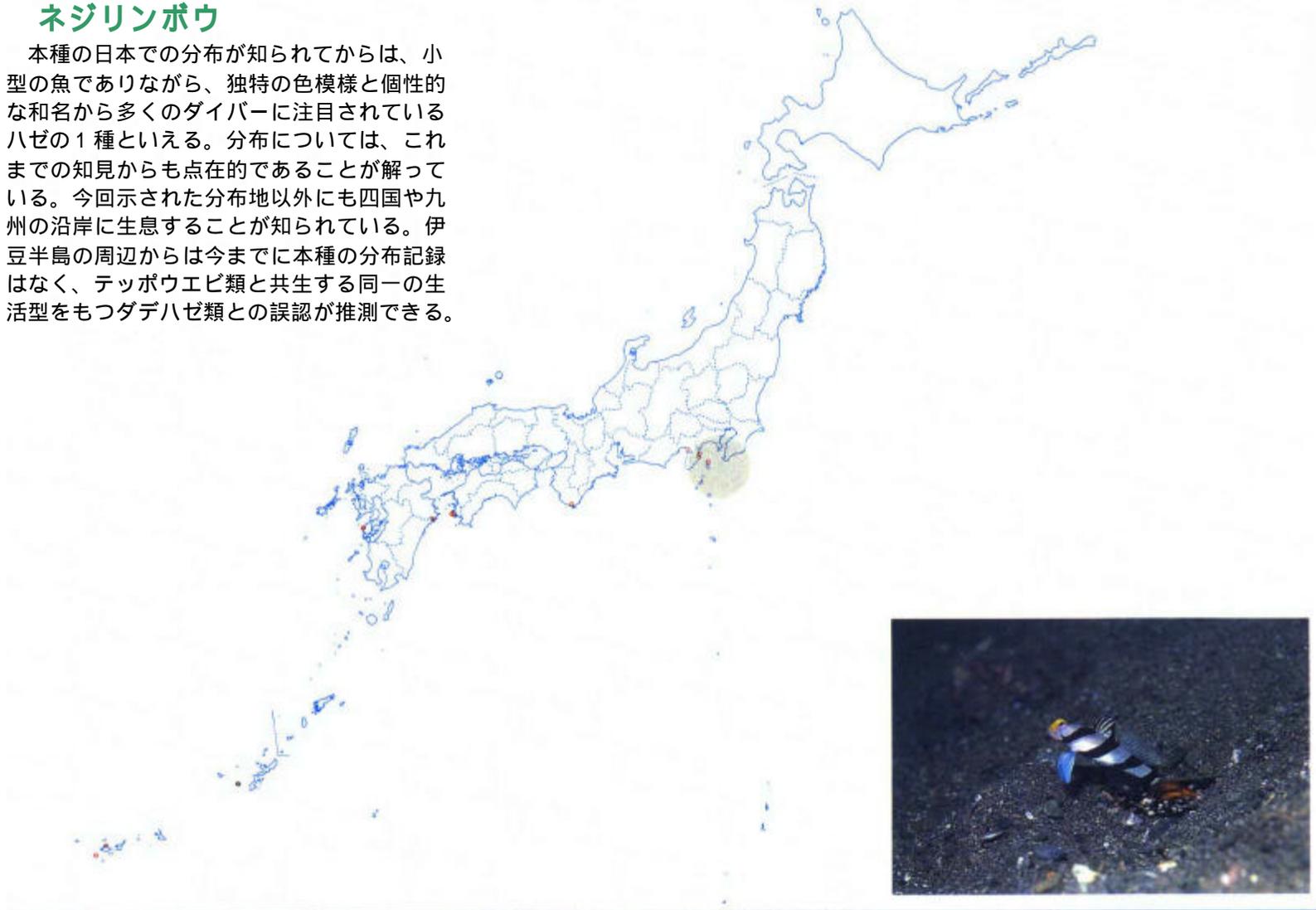
ガンガゼ

「危険な生物」としてダイバーにはよく知られる種。房総半島以南の太平洋側を中心に数多く観察されている。日本海側からも若干の報告があったが、ムラサキウニ等と誤認している可能性も考えられる。



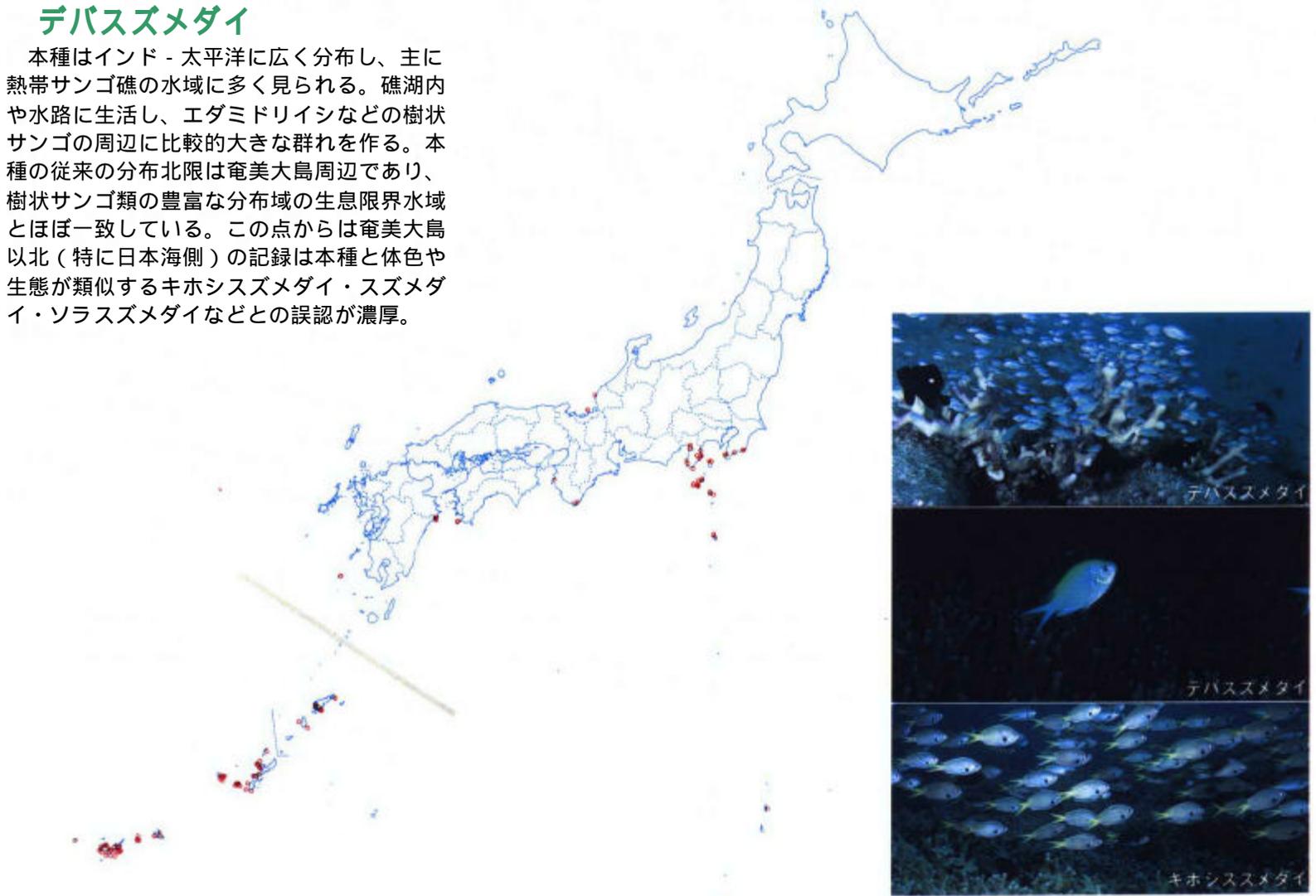
ネジリンボウ

本種の日本での分布が知られてからは、小型の魚でありながら、独特の色模様と個性的な和名から多くのダイバーに注目されているハゼの1種といえる。分布については、これまでの知見からも点在的であることが解っている。今回示された分布地以外にも四国や九州の沿岸に生息することが知られている。伊豆半島の周辺からは今までに本種の分布記録はなく、テッポウエビ類と共生する同一の生活型をもつダデハゼ類との誤認が推測できる。



デバスズメダイ

本種はインド - 太平洋に広く分布し、主に熱帯サンゴ礁の水域に多く見られる。礁湖内や水路に生活し、エダミドリイシなどの樹状サンゴの周辺に比較的大きな群れを作る。本種の従来の分布北限は奄美大島周辺であり、樹状サンゴ類の豊富な分布域の生息限界水域とほぼ一致している。この点からは奄美大島以北（特に日本海側）の記録は本種と体色や生態が類似するキホシスズメダイ・スズメダイ・ソラスズメダイなどとの誤認が濃厚。



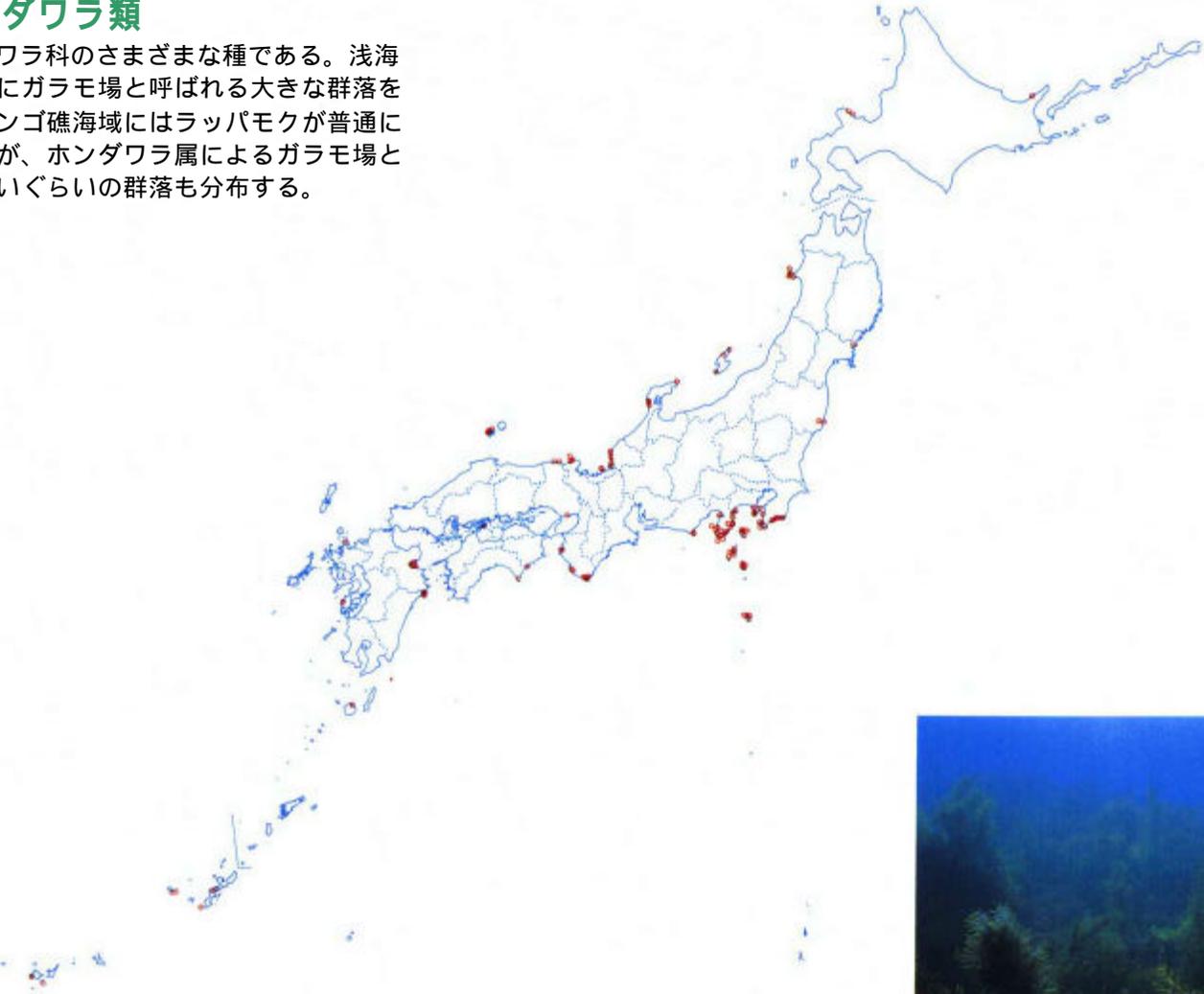
オニヒトデ

オニヒトデは造礁サンゴを食害し、しばしば大発生してサンゴ礁の生態系に大きな被害を与えることが知られている。今回の調査でも餌となるイシサンゴ類の分布する広い範囲から数多く報告があった。サンゴ礁域以外の場所としては、伊豆半島、佐賀などから報告があったが、伊豆半島では餌のイシサンゴ類が非常に少ないことから誤認である可能性もある。ただし三宅島では過去に多く観察されたことがある。



ホンダワラ類

ホンダワラ科のさまざまな種である。浅海の岩礁上にガラモ場と呼ばれる大きな群落を作る。サンゴ礁海域にはラッパモクが普通に見られるが、ホンダワラ属によるガラモ場とってよいぐらいの群落も分布する。



トゲチョウチョウウオ

本種は、日本の暖海沿岸域でチョウチョウウオについて多く観察される。成魚は主に奄美大島以南と伊豆七島・小笠原諸島などの造礁サンゴ海域に生息する。幼魚は、黒潮の影響を強くうける年にはかなり北上した海域でも見られるが、ほとんどは成魚になれない。観察された結果と従来の分布知見とは整合性が認められる。サンゴ類のポリプ食なので、造礁サンゴの分布域と深い関連性がある。



ハマクマノミ

クマノミと同様に、本種も大型のイソギンチャク（タマイタダキイソギンチャクの選択性が強い）と共生する点では、あまり移動性がなく、観察しやすい種である。奄美大島以南のサンゴ礁の浅海域に分布が知られているので、それ以外での分布記録は近似種のクマノミとの誤認が考えられる。とくに幼魚のうち、体側にある3本の白帯がクマノミと同様なパターンを示す。成魚では頭部に1本あるだけなので、クマノミとは容易に区別できる。



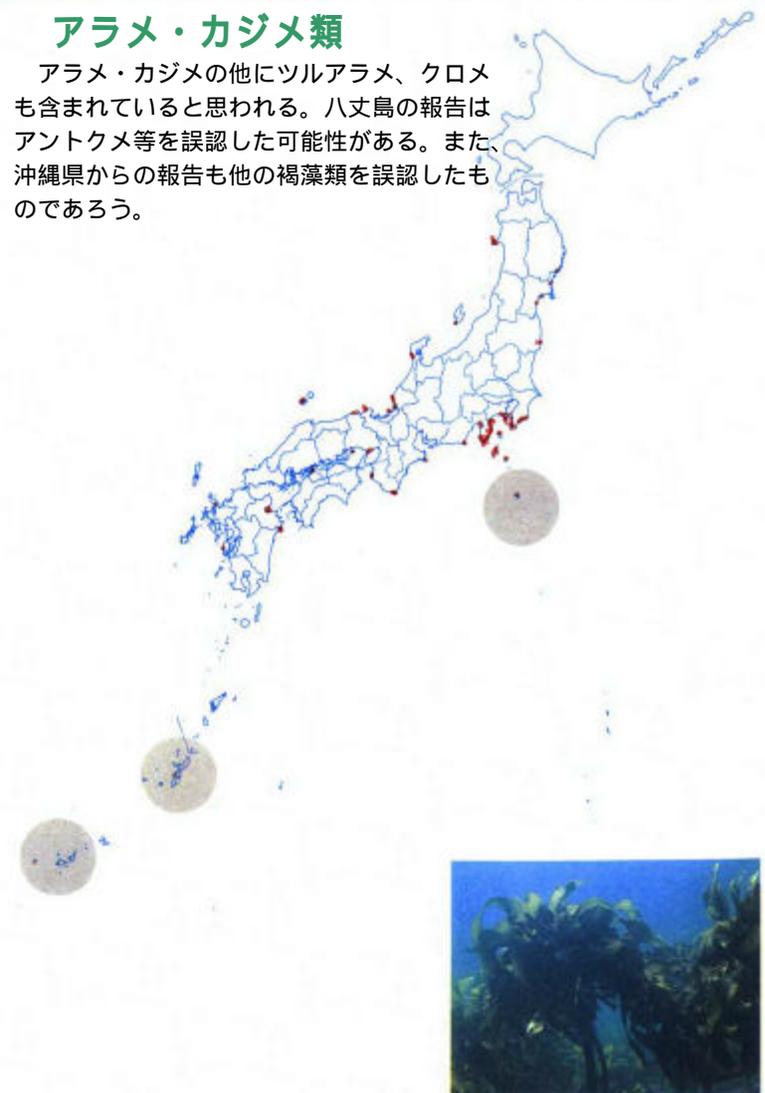
アマモ類

海草類（海産顕花植物）といった方がよいかもしれない。砂底に分布するアマモ類の他に岩上に生息するスガモ、エビアマモも含まれていると思われる。内湾等にアマモ場と呼ばれる大きな群落を形成するが、埋め立て等で消滅したものも多い。



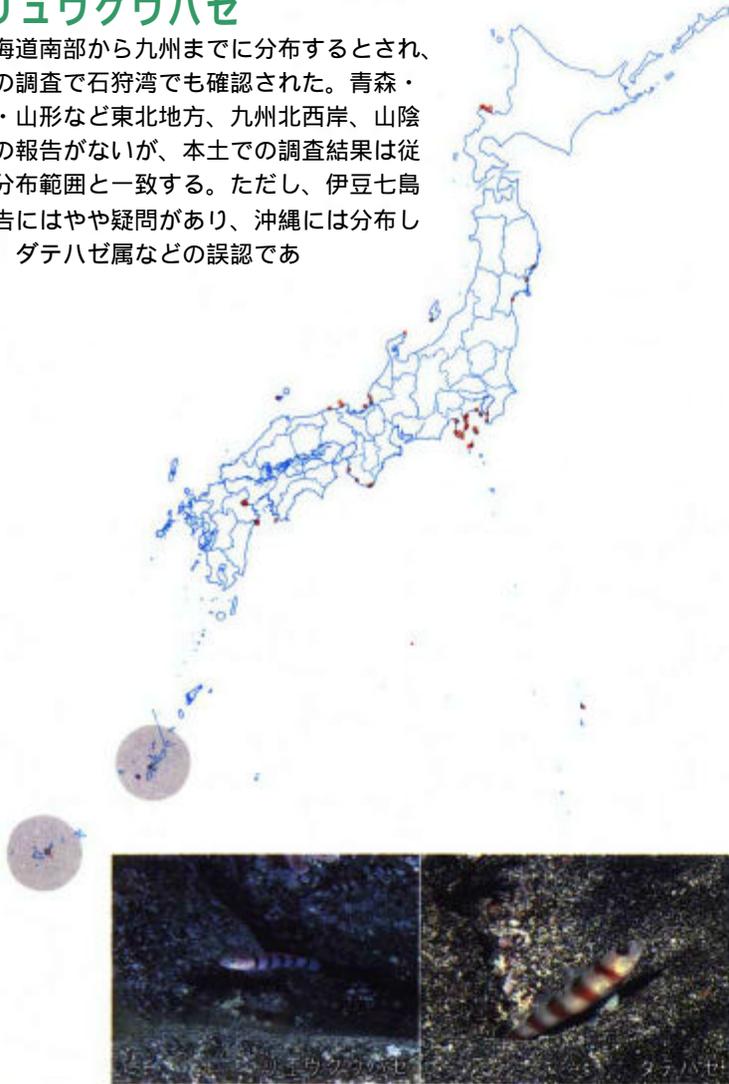
アラメ・カジメ類

アラメ・カジメの他にツルアラメ、クロメも含まれていると思われる。八丈島の報告はアントクメ等を誤認した可能性がある。また、沖縄県からの報告も他の褐藻類を誤認したものであろう。



リュウグウハゼ

北海道南部から九州までに分布するとされ、今回の調査で石狩湾でも確認された。青森・秋田・山形など東北地方、九州北西岸、山陰からの報告がないが、本土での調査結果は従来の分布範囲と一致する。ただし、伊豆七島の報告にはやや疑問があり、沖縄には分布しない。ダテハゼ属などの誤認であろう。



エゾメバル

北海道から南三陸までの北日本に分布する。北海道ではガヤと呼ばれ、最普通種である。北海道沿岸での発見例はもっと多くてもいいと思われる。中部日本以南には分布しないので、この地方からの報告はメバルなどの誤認によるものであろう。



チカ

北日本に分布し、南三陸沿岸にも周年出現する。北海道でごく普通種であるが、今回の調査では報告が少なく意外であった。岩手・宮城県の報告は本種の可能性もあるが、ワカサギやキビナゴとの混同や誤認の可能性はある。千葉・静岡県の報告はキビナゴなどの誤認であろう。



カゴカキダイ

潮通しのよい外海の磯に多い魚で、内湾にも入る。動作が活発で斑紋に特徴があるので発見されやすい。従来の分布範囲とほぼ一致する調査結果が得られた。佐渡、能登、隠岐、三陸からの従来の記録は、主として幼魚の発見によるものであったが、潜水調査でそれらの海域での所在が確認され、若狭湾（福井・京都両府県）で発見されて分布記録に確実性を加えたこと、報告の少なかった沖縄でも所在が確認されたことに注目したい。

